慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 中国語の副詞 "少" の意味·機能再考：「少量肯定」と「全量否定」について |
| Sub Title | A review of the meanings and functions of "shao" in Chinese : "shao" as "partial affirmation" and "total negation" |
| Author | 李, 貞愛(Li, Zhenai) |
| Publisher | 慶應義塾大学外国語教育研究センター |
| Publication year | 2019 |
| Jtitle | 慶應義塾外国語教育研究 (Journal of foreign language education). Vol.16, (2019. ) ,p.1- 21 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | This paper focuses on the meanings of "shao (少)" as "partial affirmation" and "total negation" in modern Chinese language. It first illustrates relations of these two meanings with the personal pronoun of the subject. When the subject is first person or third person in a sentence "shao (少)" takes on the meaning of "partial affirmation". When the subject is second person in a sentence "shao (少)" takes on both meanings of "partial affirmation" and "total negation". Secondly the paper demonstrates "partial affirmation" as the basic semantics of "shao (少)". However, when the subject is second person in a sentence and when partial affirmation is being emphasized, the function of "shao (少)" haracteristically becomes "total negation". Finally, as a result of cross-linguistic comparison the paper shows similarity of "jakjak" in Korean language as having both meanings of "shao (少)", but there is no corresponding form in Japanese. This paper provides detailed descriptions of the two functions of "shao (少)", laying out fundamental pedagogical support for the teaching of "shao (少)". It also offers comparative analysis of similarities and characteristics of how "shao (少)" works in Chinese, Japanese and Korean, making up for inadequacies in previous scholarship in this field. |
| Notes | 研究論文 |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12043414-20190000-0001 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中国語の副詞“少”の意味・機能再考

## ――「少量肯定」と「全量否定」について――

李　　貞　愛

**Abstract**

This paper focuses on the meanings of “shao(少)” as “partial affirmation” and “total negation” in modern Chinese language. It first illustrates relations of these two meanings with the personal pronoun of the subject. When the subject is first person or third person in a sentence “shao(少)” takes on the meaning of “partial affirmation”. When the subject is second person in a sentence “shao(少)” takes on both meanings of “partial affirmation” and “total negation”. Secondly the paper demonstrates “partial affirmation” as the basic semantics of “shao(少)”. However, when the subject is second person in a sentence and when partial affirmation is being emphasized, the function of “shao(少)” characteristically becomes “total negation”. Finally, as a result of cross-linguistic comparison the paper shows similarity of “jakjak” in Korean language as having both meanings of “shao(少)”, but there is no corresponding form in Japanese. This paper provides detailed descriptions of the two functions of “shao(少)”, laying out fundamental pedagogical support for the teaching of “shao(少)”. It also offers comparative analysis of similarities and characteristics of how “shao(少)” works in Chinese, Japanese and Korean, making up for inadequacies in previous scholarship in this field.

### １．はじめに

現代中国語において“少”は形容詞と動詞を兼ねる、または形容詞と動詞と副詞を兼ねる[i]、というように２つ以上の品詞にまたがる語である。形容詞兼動詞説においても、“少”の副詞的用法について取り上げられており、“少”が副詞のような文法的振る舞いをすることは明らかである。したがって、本稿は“少”を副詞として見なし、それを前提として議論を進めていく。

これまでに副詞として用いられる“少”の意味と機能については先行研究として李貞愛（2004）、陈爽（2005）、李倩（2013）、姚占龙（2014）、张谊生（2017）などがあげられるが、

いずれも“祈使句”（命令や請求、提案などを表す文を指すが、本稿では以下も中国語の“祈使句”をそのまま使用する）におけるその意味と機能に注目した考察である。その中で李貞愛（2004）では、“祈使句”における“少”の意味と機能を初めて「部分否定」と「完全否定」として結論づけている。「部分否定」とは、例えば以下のような場合を指している。

1）你**少**放点儿盐吧。
（塩を少なめに入れてください。）

上記文中の“少”は「少し、ちょっと」の意味である。話し手は聞き手の「塩を入れる」行為については成立してもよいと認識していると想定されるが、量的制限を加えている。これを“少”の「部分否定」としている。

そして、「完全否定」とは、以下の場合を指している。

2）你**少**胡说。
（でたらめを言うな。）

この文における“少”はもはや「少し、ちょっと」ではなく、「～するな」の意味である。つまり話し手は聞き手の「でたらめを言う」行為の性質自体について否定している。これを“少”の「完全否定」としている。

このように李貞愛（2004）では“祈使句”における“少”は「部分否定」と「完全否定」という二つの意味・機能を有する点について指摘している。しかし、二通りの意味をどのように解釈するべきだろうか、また「部分否定」と「完全否定」の意味的関連性は何か、“祈使句”以外の文における“少”の意味と機能はどうか、などについては触れていない。そして“别”と“少”の違いについての議論も不十分であった。例えば、以下の文についての説明において、

3） a 汤里**少**放点儿盐。
（スープに塩を入れすぎないように。）
＊b 汤里**别**放点儿盐。（＊は文法的に不適格であることを意味する。）

李貞愛（2004）では、“少”を“别”に置き換えられない理由は、“别”は行為自体に対して否定しているため、量的制限が加えられないと指摘しているが、“少”と量的制限の関係についてはさらに追究する必要があった。

さらに、李貞愛（2004）は紙幅の関係上、周辺言語との比較においても十分な議論が展開で

きなかった。

このようなことから、ここで副詞としての“少”の意味と機能について再考し、“祈使句”に限らず、平叙文や疑問文なども含めて考察する必要性が出てきた。また、“少”のように、二通りの意味・機能を兼ねて持つ言語現象が他言語にも見られるかどうか、十分な考察をしたうえで明らかにすることは中国語教育に貢献できる。

## 2．副詞“少”と肯定、否定及び量の関係

副詞“少”の意味と機能を考えるにあたって、形容詞“少”（「少ない」）が持つ量的概念を無視することはできない。したがって、この章では副詞“少”と肯定や否定、量の関係を整理してみる。

### 2.1　肯定、否定と量の関係

肯定と否定は対立した概念であり、意味論に属する。そして、言語による表現形式は以下の３パターンがあると考えられる。

(1) 完全肯定

４）他们都是我的朋友。

（彼らは全員私の友人だ。）

(2) 部分肯定（＝部分否定）

５） a. 他们中间有几个人我认识。

（彼らのうちの何人かは、私は知っている。）

b. 他们中间大多数人我认识。

（彼らのうちの大多数は、私は知っている。）

(3) 完全否定

６）没有人反对你，你放心吧。

（きみを反対する人はいない。安心して。）

(1) の完全肯定は、「全量肯定」とも言える。(2) の部分肯定は、言い換えれば部分否定でもあり、量の多少によって、５）の a を「少量肯定」（＝「多量否定」）と、５）の b を「多量肯定」（＝「少量否定」）と見なすことができる。そして (3) の完全否定は、「全量否定」とも捉えられる。

### 2.2　副詞“少”と肯定、否定及び量の関係

では 2.1 に基づいて、以下７）と８）における“少”を見てみよう。

7）我们要少说话，多做事。
（私たちは言葉を少なくし、仕事をたくさんすべきだ。）
8）你少说废话。
（下らない話をするな。）

7）の“少说话”（「言葉を少なくする」）は「少量肯定」として捉えることが可能であり、8）の“少说废话”は「下らない話をする」という行為自体に対する否定を表すので、「全量否定」と見なすことが可能である。

つまり、副詞“少”は「少量肯定」と「全量否定」の意味と機能を兼ねて持つと言えよう。

## 3．副詞“少”の「少量肯定」と「全量否定」の解釈システム

では、副詞“少”の「少量肯定」と「全量否定」という二通りの意味をどのように解釈するのか。そこに法則性はあるのか。また、“祈使句”以外の文種ではどうか。これらの問題を解決すべく、本研究では“北京语言大学汉语语料库（BCC）”（「北京語言大学中国語コーパス（BCC）」）を利用し、「“少”＋VP」で用例を調べた。その結果、主語の人称が副詞“少”の意味の確定に大きく関わっていることがわかった。次節から具体的に見よう。

### 3.1　副詞“少”が「少量肯定」と解釈される時

副詞“少”は主語が第一人称と第三人称の時、「少量肯定」と解釈される。まず主語が第一人称の場合を見てみる。

#### 3.1.1　主語が第一人称の時

9）许三观说：“你们还要摇船，你们要给自己留着点力气。”来顺说：“我卖了血以后，力气一点都没少。”“这样吧。”来喜说：“我们少卖掉一些力气，我们每人卖给你一碗血。你买了我们两碗血，到了长宁你就能卖出去四碗了。”　（余华／许三观卖血记）

10）李爱杰忧心忡忡地早早起来，洗了那个枕套。待秦山起来，她便一边给他盛粥一边说：“咳嗽得这么厉害，咱今天进城看看去。”“少抽两天烟就好了。”秦山面如土灰地说。
（迟子建／亲亲土豆）

11）李洪文一见就说：这就叫人不请天请。今日杂志社庆贺胜利，说是不请了你这个编外的当事人，可你飘然而至，只好我们少吃点了！　（贾平凹／废都）

12）我说，不是我怕什么，我敢拿着喇叭筒子站在楼顶上说我爱你，但那样，后果就不堪设想了——我明白——近期我们少见面，别让她抓住把柄。　（莫言／生死疲劳）

9）の“我们少卖掉一些力气，”は「俺たち体力を売りすぎないように（俺たちは血を売りすぎないように）、」という意味である。10）の“少抽两天烟就好了。”は「たばこを２、３日控えればよくなる（たばこを２、３日少なく吸えばよくなる）。」意味で、これは話し手“秦山”の台詞であり、主語“我”が省略された形である。11）の“只好我们少吃点了！”は「私たちは少し食べるしかない！」という意味で、12）の“近期我们少见面，”は「私たち当分の間会うのを控えよう（私たち当分の間会う回数を少なくしよう）。」の意味である。

上記用例中の“少”はいずれも「少量肯定」の意味として解釈され、文の主語はすべて第一人称である。

### 3.1.2　主語が第三人称の時

次は主語が第三人称の場合を見てみよう。

13）吴碧波道：“我在杏园那里来。我看他搬家以后，越发的和我们少来往了。听说他搬家，是有所为的，所以其心专在一方面呢。你知道吗？”　（张恨水／春明外史）

14）她说：“我受不了他天天回去陪老婆。”我说：“就为这个？　那我跟张国庆说说，让他少回家不就行了，何必结婚呢？”她说：“不，我要结婚。”说得很平静，又坚决，显然是经过深思的。　（麦家／暗算）

15）这时候，亚玲走上前来，对我说：“快回去吧，李老师也在后面来了。咱们快点往回走，好让他少跑点路。李老师是个深度近视，别让他跌一跤，把眼镜给碰掉了！”　（路遥／在困难的日子里）

16）然后大胖子进屋来，高声唱道：有螃蟹——要两桶柴油换。我也批准了，但是要他少带几个人去——搞得那么沸沸扬扬不好。他答应了，但是他们把那辆柴油车开走时，车上至少有十个人。　（王小波／黑铁时代）

17）周仆简直比一个妻子的关怀还要周到，常常劝他少吃一点辣椒。可是邓军什么都可以吃得下，就是没有辣椒不行。　（魏巍／东方）

18）接着她又对周氏说：“大妹，你可以劝劝他少累一点。”“我也劝过他几次。不过他总说他忙一点心里倒舒服。　（巴金／春）

13）の“我看他搬家以后，越发的和我们少来往了。”は「彼は引っ越してから、ますます私たちとあまり行き来しなくなった（私たちと行き来するのが少なくなった）。」の意味で、“少来往”の主語は第三人称の“他”である。14）の“让他少回家不就行了，”は「彼に家に頻繁に帰るなと言えばいいのさ（彼に家に帰る回数を少なくするように言えばいいのさ）。」の意味で、“少回家”の主語はこちらも第三人称の“他”である。15）の“咱们快点往回走，好让他少跑点路。”は

「私たち急いで戻りましょう、彼が無駄足をあまり運ばないように（彼が無駄足を運ぶ距離を短くするように）。」の意味で、16）の“但是要他少带几个人去”は「しかし彼にあまりたくさん人を連れて行かないよう言わなくてはならない」の意味である。そして17）の“常常劝他少吃一点辣椒。”は「唐辛子を食べ過ぎないようにとしょっちゅう彼に言っている。」の意味で、18）の“你可以劝劝他少累一点。”は「彼に働きすぎないように説得してもよいのでは。」の意味である。15）の“跑点路”、16）の“带几个人”、17）の“吃一点辣椒”、18）の“累一点”の主語はみな第三人称の“他”である。上記13）から18）における副詞“少”はいずれも「少量肯定」の意味として解釈され、兼語文に現れている。

### 3.2　副詞“少”が「少量肯定」と「全量否定」の二通りに解釈される時

しかし、主語が第二人称の場合、“少”は「少量肯定」と「全量否定」の二通りに解釈される現象が生じる。

#### 3.2.1　「少量肯定」と解釈される時

まずは“少”が「少量肯定」と解釈される場合を見てみる。

19）家树道：“你们的事我都预备好了。我这次回南迟则三个月，快则一个月，或两个月，我一定回来的。我现在给你们预备三个月家用，希望你们还是照我在北京一样的过日子。万一到了三个月……但是不能不能，无论如何，两个月内，我总得赶着回来。”说着，就在身上一掏，掏出两卷钞票来，先理好了三百元，交给沈大娘，然后手理着钞票，向凤喜道：“我不在这里的时候，你少买点东西吧。我现在给你留下一百块钱零用，你看够是不够？”　（张恨水／啼笑因缘）

20）把篮子顿到地板上的八弟，蹲下去把胖大的都拣给我，自己选那小而熟的。“八弟你少吃点。为哥哥留一半，不然爹爹又会说你淘气。”“是，我知道呢，”他也怕爹爹知道是他出的主意，吃了些就玩去了。　（沈从文／一个妇人的日记）

21）他正看着汽水瓶上的北冰洋。也许那儿不错，有一间房子的话。“你少喝点儿吧。”“没关系，啤酒，加了汽水的。”姑娘想，等将来自己当了母亲的时候，成了老太太，一定要理解自己的女儿，或者儿子。“假如是你自己不愿意，那……那就算了。”小伙子说，晃晃手里的杯子，“咕咚咚”喝光。　（史铁生／夏）

22）“李先生，你猜他们什么意思？　他们以为那地方遍地都是坟堆，你看了是很伤心的。你少去一趟，就少流一回眼泪了。”　（张恨水／春明外史）

23）费喜利见泰山缩着头没精打采，就说：“你要信我的，就别看什么病去。你少抽两袋烟，多活动活动就好了。”　（迟子建／亲亲土豆）

24）“萝，你太聪明了，我实在为你难过。你少说一点，多想一点，你的见解就不同了。”
（沈从文／一个女剧员的生活）

25）五富的衣服脏得看不出个颜色，我训斥他：你少睡一会儿也该把衣服洗一把水么，穿着不难受？　他说：不难受。（贾平凹／高兴）

19）の“我不在这里的时候，你少买点东西吧。”は「私が留守の間、きみは買い物をしすぎないように。」、20）の“八弟你少吃点。为哥哥留一半，不然爹爹又会说你淘气。”は「お前食べ過ぎないように。お兄ちゃんに半分残してあげて、でないとまた親父にいたずらしてるなと怒られるぞ。」、21）の“你少喝点儿吧。”は「あなた飲み過ぎないように。」の意味で、いずれも「第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋数量詞（“一点儿”）＋（目的語）」という構造をなしている。文中の“少”はこれから実施予定の聞き手の行為に対し、「少量」を求め、「量的制限」を加えている。

そして、22）の“你少去一趟，就少流一回眼泪了。”は「あなたが行く回数を減らせば、悲しむ回数も減る（あなたが一回少なく行けば、一回少なく涙を流す）。」、23）の“你少抽两袋烟，多活动活动就好了。”は「たばこを少し控え、たくさん運動すればよくなる。」、24）の“你少说一点，多想一点，你的见解就不同了。”は「ぺらぺら喋らず（多く語らず）に、もっと考えなさい、そうするとあなたの見方は変わる。」、25）の“你少睡一会儿也该把衣服洗一把水么，穿着不难受？”は「寝る時間を削って（寝る時間を短くして）でも洗濯はしておくべきだった。このまま着て気持ち悪くないか？」の意味である。22）から25）の用例はすべて「第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋数量詞（“一趟／一回／两袋／一点／一会儿”）＋（目的語）」の構造をなしている。加えて、22）から25）を見ると、22）の“你少去一趟，就少流一回眼泪了。”と23）の“你少抽两袋烟，多活动活动就好了。”、そして24）の“你少说一点，多想一点，你的见解就不同了。”は仮定関係を表す複文で、25）の“你少睡一会儿也该把衣服洗一把水么。”は譲歩関係を表す複文になっている。つまり、いずれも未実現のことを表す文である。これらの文における“少”は仮に実施する聞き手の行為に対し、「少量」を求め、「量的制限」を加えているのである。

ここで、第二人称主語の文に現れる副詞“少”が「少量肯定」として解釈される時の文法的特徴を以下のようにまとめておく。

特徴その１

形式上の特徴：第二人称主語＋“少”＋述語動詞＋数量詞＋（目的語）

特徴その２

意味上の特徴：これから実施予定、または仮定される聞き手の行為に対し、「少量」を求め、

「量的制限」を加える。

### 3.2.2 「全量否定」に解釈される時

続けて主語が第二人称で、副詞“少”が「全量否定」として解釈される場合を考察する。ここでまず形式上の特徴から２つのグループに分けて議論を進めることにする。

**第１グループ：第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋(目的語)**

26）梅冠三觉得空气有点沉闷。他也不知道为什么，吃了一半饺子时，他自己走到锅前说：“添点汤，太干了。”当他拿住勺子时，春义却把勺子一夺说：“你**少**动手。”

（李準／黄河东流去）

27）老伴又把个夹袄递给爱爱说：“你带上，夜里冷。”老清却说：“爱爱不用去了。”老伴说：“怎么又变卦了？”老清说：“你**少**说话。我自己能行，爱爱，你回家！”

（李準／黄河东流去）

28）家福朝对过宝柱家一努嘴，“宝柱连家都不回，就放心大胆地让别人给收拾。”万老头看看进进出出帮宝柱搬家的人，压低声音冷笑道：“你**少**提那个混蛋，那是个畜生，老太太住院，他都不去守着，还算个人？　你瞧瞧他家趁个嘛？　装不满一平车，一件像样的东西也没有，当然不怕偷。”　（孙力、余小惠／都市风流）

29）陈佐千让宋妈堵住门，不让人进来看热闹。毓如说，出了丑就出个够，还怕让人看？看她以后怎么见人？　陈佐千说，你**少**插嘴，我看你也该灌点醒酒药。

（苏童／妻妾成群）

30）沙枣花说：“马粮哥，我等了你三十年。”司马粮道：“枣花，你**少**来这一套，等我三十年，多大的罪，加在了我头上。”　（莫言／丰乳肥臀）

26）の“你**少**动手。”は「勝手に触らないで。」の意味で、“当他拿住勺子时，春义却把勺子一夺”、つまり「彼がおたまを持ってスープを入れようとするときに、春義がおたまを奪い取った」時の発話である。春義は彼が実施しようとする行動“动手”に対して、“少”を用いて阻止していることがわかる。

27）の“你**少**说话。”は「うるさいな。」の意味で、もともと「老清」と一緒に行くはずだった「愛愛」が「行かなくてよい」と話した「老清」に対し、「どうしてまた気が変わったの？」と問いつめる奥さん「老伴」への発話であるが、すでに実施済みの「老伴」の“说话”という行為に対して、「これ以上言うな。」という阻止の意味を表している。

28）の“你**少**提那个混蛋，”は「あのろくでなしの話はもうするな。」の意味である。“那个混蛋”は“宝柱”を指すが、その“宝柱”の話をしている“家福”に対して、話し手の“万老头”が「こ

れ以上続けるな」と阻止している。

29）の“你少插嘴，”は「お前は口を挟むな。」の意味である。“毓如”の“出了丑就出个够，还怕让人看？　看她以后怎么见人？”という発話に対して、話し手の“陈佐千”が「これ以上口を挟むな。」と“毓如”の行為の継続を阻止している。

30）の“枣花，你少来这一套，”は「棗花、そういうふうに言うのはもうやめて。」の意味である。これは話し手の“司马粮”が聞き手である“沙枣花”の“马粮哥，我等了你三十年。”という発話を聞いた後、「そういうふうに言うのはもうやめて」と阻止していることがわかる。

26）から30）の用例でわかるように、第１グループの形式は、これから実施予定の行為（26）の用例）、すでに実施済みまたは実施中の行為（27）～30）の用例）に対し使用できる。さらに、26）から30）において、話し手は聞き手の行為に対して消極的、不満といった否定的評価をしていることも明らかである。そして否定的評価をしているがゆえに、副詞“少”を用いて、「少なければ少ないほど良い」、つまり「少量肯定」を強調し（＝「多量否定」が強調されることになる）、その結果聞き手の当該行為の実施または継続を阻止する[ii]といった「全量否定」の語用論的効果が生まれたと考えられる。

次に第２グループを見よう。

**第２グループ：第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋数量詞＋（目的語）**

31）燕西学着那戏院子里小生的样子，将右手一个食指，横着在鼻子下一拖，接上提起大腿，在大腿上一拍，于是将食指向地下画着圈圈，身子一扭道：“我是醉翁之意不在酒哟……”白莲花轻轻在他胳膊上捏了一把，低声道：“你少说两句，好不好？　他们听见，有什么意思？”　（张恨水／金粉世家）

32）她讨厌她的工作，她的家，也包括她的父亲，窝窝囊囊，只要继母嗓门一高，就没主意。你少讲两句好不好？　他即使抗议也不敢声张。　（高行健／灵山）

33）清秋将稀饭搅凉了，夹着凉菜喝了一口，觉得很适口，先吃完了一碗。那一碗稀饭凉了许久，自不十分热，清秋端起来，不多会，又吃完了。伸着碗，便让老妈子再盛。李妈道：“七少奶奶，我瞧你可真是不舒服，你少吃一点吧？　凉菜你就吃得不少，再要闹上两三碗凉稀饭，你那个身体，可搁不住。”　（张恨水／金粉世家）

34）克安气恼地瞪着觉英的背影，等到觉英走进了隔壁的房间，他才咬牙切齿地骂起来。王氏对他亲切地笑了笑，说：“四老爷，你少说两句好不好？　人家的儿子你多管他做什么？　有话你跟三嫂讲好了，也犯不着为这种东西生气。现在大家押也画了，合同也收起来了。还有没有别的事情？　有话早点说清楚，大家也好散了。”（巴金／秋）

35）春兰马上反驳道。她愤恨地望着觉群。“我没有！　我没有！　你冤枉我，不得好死！”

觉群挣红脸抵赖道。“好，五少爷，我冤枉你，我不得好死！　哪个赖，哪个也不得好死！”春兰又气又急大声发誓道。“春兰，你少说两句！”觉新知道觉群在抵赖，因为觉得春兰的话不能入耳，便阻止道。（巴金／秋）

31）の“你少说两句，好不好？”は「もうやめなさいよ、いい？」の意味で、“我是醉翁之意不在酒哟……”と言いながら、さらに話を続けようとする“燕西”に対しての発話で、“燕西”の「さらに話す行為」を止めようとしていることがわかる。

32）の“你少讲两句好不好？”は「もうやめてもらってもいい？」という意味である。“继母”が“嗓门一高”、つまり「大きな声で長々と話す」時に、“她的父亲”は「大きい声で話すのをもうやめなさい」と阻止しているのである。

33）の“你少吃一点吧？”は「これ以上召し上がらないほうが良いのでは？」という意味である。これは“七少奶奶”である“清秋”が次から次へと食べる行為に対して、“李妈”が「これ以上食べないで」と止めていることがわかる。

34）の“四老爷，你少说两句好不好？”は「あなた、これ以上言うのをやめたらどうですか？」という意味である。これは“四老爷”である“克安”の“咬牙切齿地骂起来”という行為に対して、話し手の“王氏”が「これ以上続けないように」と求めているのである。

35）の“春兰，你少说两句！”は「春蘭、黙りなさい！」という意味である。これは聞き手の“春兰”が“不能入耳”（「聞くに堪えない」）の言葉で話し続けているため、話し手の“觉新”はその行為に対して阻止しているのである。

31）から35）までを見てわかるように、第２グループの形式上の特徴は、述語動詞の後に数量詞を伴って「全量否定」を表す点である。そしてこの「全量否定」は、話し手の発話時以後、当該行為を行わない（続けない）でほしいという意味での「全量否定」である。実際今回集めた用例のうち、このような形式をもって「全量否定」を表すものはそれほど多くないことに加えて、述語動詞は“说／讲”がよく用いられていることも明らかになった。

では、副詞“少”に後続する述語動詞に数量詞を伴っているのに、なぜ「全量否定」を表すことができるのだろう。

第１グループと違って、第２グループは聞き手の実施中の行為に対して用いられている。話し手は発話時までの聞き手の行為自体に対しては容認しているものの、「過量、または度が過ぎた」と判断したため、“少”と述語動詞の後の数量詞で当該行為に対し「量的制限」を加え、「これ以上当該行為を継続（実施）しないよう」求めていることがわかる。つまり、話し手の発話時より、その行為をやめるようという「全量否定」の語用論的効果が生まれたと考えられる。

第１グループと第２グループは、形式上は述語動詞の後に数量詞を伴うか否かで区別される

が、“少”はいずれも話し手の発話時以後当該行為を実施しないようという「全量否定」の語用論的機能を有していると言えよう。

では、3.2.1と3.2.2で述べた第二人称主語文における副詞“少”の「少量肯定」と「全量否定」について、次のようにまとめておこう。

A　“少”が「少量肯定」を表す時

形式：第二人称主語＋“少”＋述語動詞＋数量詞＋(目的語)

語用論的特徴：話し手は聞き手の実施予定、または仮に実施する行為に対し、“少”で「少量」実施を求め、「量的制限」を加える。

B　“少”が「全量否定」を表す時

形式1：第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋(目的語)

語用論的特徴：話し手は聞き手の実施予定、実施中、実施済みの行為に対して否定的評価をし、“少”をもってその行為の量が「少なければ少ないほど良い」と「少量」を強調するあまり、発話時以後その行為を実施しないよう阻止するといった「全量否定」の語用論的効果が生まれる。

形式2：第二人称主語“你”＋“少”＋述語動詞＋数量詞＋(目的語)

語用論的特徴：話し手は聞き手の実施中の行為に対して「過量、または度が過ぎている」と評価し、“少”をもって「量的制限」を行い、発話時以後当該行為を継続しないよう阻止するといった「全量否定」の語用論的効果が生まれる。

すなわち、“少”の意味はあくまでも「少量肯定」であり、「全量否定」は“少”の語用論的機能であると言えよう。

### 3.2.3　副詞“少”の否定の強さ

第二人称主語文における副詞“少”は「全量否定」の語用論的機能を有するが、その否定の強さは、具体的な文脈の中で、話し手と聞き手の年齢、地位、権力、役割などといった語用論的要素に大きく左右される。まず28)の用例を見てみよう。

28) 家福朝对过宝柱家一努嘴，“宝柱连家都不回，就放心大胆地让别人给收拾。”万老头看看进进出出帮宝柱搬家的人，压低声音冷笑道：“你**少**提那个混蛋，那是个畜生，老太太住院，他都不去守着，还算个人？　你瞧瞧他家趁个嘛？　装不满一平车，一件像样的东西也没有，当然不怕偷。”　(孙力、余小惠／都市风流)

この用例において、話し手の“万老头”は聞き手“家福”より年齢が上であり、優位になっている。従って、“你少提那个混蛋，”（「あのろくでなしの話をするな。」）は否定の語気がとても強く感じる。

ではもう一つ、35）の用例を見よう。

35）春兰马上反驳道。她愤恨地望着觉群。“我没有！　我没有！　你冤枉我，不得好死！”觉群挣红脸抵赖道。“好，五少爷，我冤枉你，我不得好死！　哪个赖，哪个也不得好死！”春兰又气又急大声发誓道。“春兰，你少说两句！”觉新知道觉群在抵赖，因为觉得春兰的话不能入耳，便阻止道。（巴金／秋）

この用例では、話し手の“觉新”は一家の「一番上の坊ちゃん」であり、聞き手の“春兰”は使用人である。話し手と聞き手の社会的地位の優劣により、“你少说两句！”（「黙りなさい」）は否定の語気が非常に強く感じる。

しかし、以下の33）の用例は逆である。

33）清秋将稀饭搅凉了，夹着凉菜喝了一口，觉得很适口，先吃完了一碗。那一碗稀饭凉了许久，自不十分热，清秋端起来，不多会，又吃完了。伸着碗，便让老妈子再盛。李妈道：“七少奶奶，我瞧你可真是不舒服，你少吃一点吧？　凉菜你就吃得不少，再要闹上两三碗凉稀饭，你那个身体，可搁不住。”（张恨水／金粉世家）

33）の用例において、話し手の“李妈”は使用人で、聞き手の“清秋”は“七少奶奶”である。話し手は聞き手より社会的地位が下であるため、“你少吃一点吧？”は「全量否定」の語用論的機能を有するが、否定の語気は弱めである。

このように話し手が“少”を用いて表す「全量否定」の強さは「弱から強へ」という連続性の中で変化する。

ところが、上記のような“少”を用いた“祈使句”を“祈使否定句”（否定命令文）とし、その否定の強さについて相反する結論を下した先行研究がある。まず姚占龙（2014）では、“少”を用いた“祈使否定句”は、その否定の度合が“别”や“不要”、“甭”を用いた“祈使否定句”より強いと指摘している。しかしこれに対し、张谊生（2017）では、“你少X”構文と“你别X”構文について比較対照を行い、異なる文脈において差はあるものの、“你少X”構文は一般的に“你别X”より否定の度合が低いとされている。これらの見解の違いは、筆者が前で述べた、“少”の「全量否定」の度合が弱から強へという連続性の中で変化する、という主張で説明できるものと考えられる。

これまでの考察を踏まえて、副詞“少”の意味と機能は次のようにまとめることができる。

① “少”は「少量肯定」と「全量否定」という二つの意味と機能を持っている。
② “少”の二通りの意味解釈は主語の人称と関係があり、第一人称と第三人称が主語となる場合、一般的に「少量肯定」の意味として解釈される。
③ 第二人称が主語で、“少”に後続する述語動詞の後に数量詞を伴い、そして聞き手の行為が実施予定または仮に実施するものの場合、「少量肯定」の意味として解釈される。
④ 第二人称が主語で、話し手が a) 聞き手の実施予定、実施中、実施済みの行為に対し、否定的評価をした場合、b) 聞き手の実施中の行為に対し「過量、度が過ぎている」と判断した場合、“少”をもって当該行為の実施または継続を阻止するといった「全量否定」の語用論的機能を持つことになる。
⑤ “少”が「全量否定」を表す場合、話し手と聞き手の年齢や地位、権力や役割といった語用論的要素によって、否定の語気は「弱から強へ」という連続性の中で変動する。

## 4. 副詞“少”の類型論的考察

これまで述べたように、中国語の副詞としての“少”は、「少量肯定」と「全量否定」という二通りの意味と機能を有するが、このような現象は言語一般において普遍的なことなのか、それとも中国語特有のことなのか、第４章ではこの問題について考えてみたい。これは、中国語と他の言語との相違を知ることだけにとどまらず、中国語教育においてもより正確に、かつ客観的に副詞“少”について捉えることができ、説明することができるようにするためである。本稿ではひとまず日本語と韓国語を考察対象とした。

### 4.1 日本語の場合

日本語には「少ない」という形容詞がある。そして「少ない」は「少なく」という連用形があるが、「少なく～する」という使い方はあまり普遍的ではないようである[iii]。そのかわり、「少し」や「ちょっと」という副詞があり、こちらの使用頻度はとても高い。「少し」や「ちょっと」は本稿で言う「少量肯定」の意味と機能を有すると言える。例えば、以下の３つの用例を見よう。

36）私はビールを少し飲む。
37）塩をちょっとだけ入れて。
38）私は少し疲れた。

上記３つの文をそれぞれ中国語にすると、以下のようになる。

36） a 我喝**一点儿**啤酒。
b 我**少**喝**一点儿**啤酒。
37） a 你放**一点儿**盐。
b 你**少**放**一点儿**盐。
38） a 我**有点儿／有些**累了。

上記のように、日本語の「少し」や「ちょっと」は“少”と必ずしも一対一の対応関係ではなく、“有点儿”“一点儿”“有些”などと対応する場合もある。
では、「少量肯定」を表す“少”は日本語にするとどうなるか。いくつかの用例を見てみよう。

10）李爱杰忧心忡忡地早早起来，洗了那个枕套。待秦山起来，她便一边给他盛粥一边说：“咳嗽得这么厉害，咱今天进城看看去。”“**少**抽两天烟就好了。”秦山面如土灰地说。（迟子建／亲亲土豆）

“**少**抽两天烟就好了。”を日本語にすると、「２、３日たばこを控えればよくなる。」になる。ここでの「控えれば」は、「たばこの（吸う）量を少なくする」という意味である。

12）我说，不是我怕什么，我敢拿着喇叭筒子站在楼顶上说我爱你，但那样，后果就不堪设想了——我明白——近期我们**少**见面，别让她抓住把柄。（莫言／生死疲劳）

“近期我们**少**见面，”は「私たち当分の間会うのを控えよう。」になる。「会うのを控えよう」は「会う回数を少なくする」という意味として捉えられる。

17）周仆简直比一个妻子的关怀还要周到，常常劝他**少**吃一点辣椒，可是邓军什么都可以吃得下，就是没有辣椒不行。（魏巍／东方）

“常常劝他**少**吃一点辣椒，”は「唐辛子を食べ過ぎないようにとしょっちゅう彼に言っている。」になる。「食べ過ぎない」は「少し食べても良いけど、過量にならない」の意味である。

24）“萝，你太聪明了，我实在为你难过。你**少**说一点，多想一点，你的见解就不同了。”（沈从文／一个女剧员的生活）

“你少说一点,”は「ぺらぺら喋らずに、」になるが、「ぺらぺら喋らず」は「少しは喋ってもよいが、量を超えないように。」の意味であると考えられる。

こうしてみると、「少量肯定」の“少”は日本語において、一般的に「(少しは良いけど)、～しすぎないように」に対応していると言ってよいだろう。

次は、“少”が「全量否定」を表す場合を見てみよう。

28）家福朝对过宝柱家一努嘴，“宝柱连家都不回，就放心大胆地让别人给收拾。”万老头看看进进出出帮宝柱搬家的人，压低声音冷笑道：“你少提那个混蛋，那是个畜生，老太太住院，他都不去守着，还算个人？　你瞧瞧他家趁个嘛？　装不满一平车，一件像样的东西也没有，当然不怕偷。”　（孙力、余小惠／都市风流）

“你少提那个混蛋,”は「あのろくでなしの話はもうするな。」と訳され、ここでの“少”は「～（する）な」という否定の終助詞に対応している。

29）陈佐千让宋妈堵住门，不让人进来看热闹。毓如说，出了丑就出个够，还怕让人看？看她以后怎么见人？　陈佐千说，你少插嘴，我看你也该灌点醒酒药。
（苏童／妻妾成群）

“你少插嘴,”は「お前は口を挟むな。」と訳され、28）と同様、“少”は「～（する）な」という否定の終助詞と対応している。

35）春兰马上反驳道。她愤恨地望着觉群。“我没有！　我没有！　你冤枉我，不得好死！”觉群挣红脸抵赖道。“好，五少爷，我冤枉你，我不得好死！　哪个赖，哪个也不得好死！”春兰又气又急大声发誓道。“春兰，你少说两句！”觉新知道觉群在抵赖，因为觉得春兰的话不能入耳，便阻止道。　（巴金／秋）

“你少说两句！”は「黙りなさい！」に訳されるが、その意味は「喋るな」に相当する。「～（する）な」という否定の終助詞の代わりに、否定の意味を有する語彙「黙る」を用いて対応している。

こうしてみると、中国語の「全量否定」の“少”は日本語では「少し」や「ちょっと」では対応できず、以下の形式をもって対応することになる。

形式１：動詞の終止形＋禁止を表す終助詞「な」（用例28）や29）のように）

形式２：否定の意味を有する語彙やその他の言語形式（用例35）のように）

### 4.2　韓国語の場合

韓国語には「적다」という形容詞があり、日本語の「少ない」、中国語の“少”に相当する。そして、「적다」の連用形は「적게」であり、以下39）のように、副詞的用法がある。

39）많이 움직이고 **적게** 먹어야 건강할 수 있다.
　a たくさん運動して、少なめに食べてこそ健康でいられる。
　b 多动**少**吃才能保持健康。

さらに、「적게」は副詞「좀」（日本語の「少し、ちょっと」、中国語の“稍微／有点儿”に相当する）の後に置かれて一緒に使う場合が多い。たとえば、

40）술 **좀 적게** 마셔.
　a お酒を飲み過ぎないように。
　b **少**喝点儿酒。

このように、韓国語では「적게」または「좀　적게」で「少量肯定」を表すことができるが、中国語の“少”との対応関係はどうかを見てみよう。

10）李爱杰忧心忡忡地早早起来，洗了那个枕套。待秦山起来，她便一边给他盛粥一边说：“咳嗽得这么厉害，咱今天进城看看去。”“**少**抽两天烟就好了。”秦山面如土灰地说。
（迟子建／亲亲土豆）

10）の“**少**抽两天烟就好了。”を韓国語にすると、

담배　　**좀　적게**　　피우면　　괜찮을　거야.
（たばこを　ちょっと少なめに　吸えば　よくなるだろう。）

になるが、“少”は「좀 적게」に対応している。次の２つの用例も見てみよう。

12）我说，不是我怕什么，我敢拿着喇叭筒子站在楼顶上说我爱你，但那样，后果就不堪设想了——我明白——近期我们**少**见面，别让她抓住把柄。　（莫言／生死疲劳）

17）周仆简直比一个妻子的关怀还要周到，常常劝他少吃一点辣椒，可是邓军什么都可以吃得下，就是没有辣椒不行。（魏巍／东方）

12）の“近期我们少见面，”は、

요즘　우리　**좀　적게**　만나.
（当分の間　私たち　ちょっと少なめに　会おう。）

に訳され、17）の“常常劝他少吃一点辣椒，”は、

항상　그더러　고추　**좀　적게**　먹으라고　권고한다.
（しょっちゅう　彼に　唐辛子を　ちょっと少なめに　食べろと　忠告する。）

に訳される。12）と17）の“少”はいずれも「좀 적게」と対応している。また、“少”が「적게」だけに対応する例もある。例えば、

24）“萝，你太聪明了，我实在为你难过。你少说一点，多想一点，你的见解就不同了。”（沈从文／一个女剧员的生活）

24）の“你少说一点，多想一点，”は、

**적게**　말하고　많이　생각하면
（少なめに　話して　たくさん　考えれば、）

に訳される。ここは後の「많이」（たくさん）との対応を考えて、“少”は「적게」だけにしたほうが妥当であろう。

以上の内容をまとめると、中国語の「少量否定」の“少”は、韓国語では以下の形式をもって対応していることになる。

形式１：「적게」＋動詞
形式２：「좀　적게」＋動詞

では、「적게」または「좀　적게」は「全量否定」の機能を果たせるのか。中国語の“少”が

「全量否定」を表す場合との対応関係を見てみよう。

28）家福朝对过宝柱家一努嘴，“宝柱连家都不回，就放心大胆地让别人给收拾。”万老头看看进进出出帮宝柱搬家的人，压低声音冷笑道：“你少提那个混蛋，那是个畜生，老太太住院，他都不去守着，还算个人？　你瞧瞧他家趁个嘛？　装不满一平车，一件像样的东西也没有，当然不偷。”　（孙力、余小惠／都市风流）

28）の“你少提那个混蛋，”は、

그　나쁜　새끼　얘기　꺼내지　마.
（あの　悪い　やつの　話　出す　な。）

に訳される。“少提”は動詞「꺼내다」の語幹「꺼내」＋禁止を表す「지 마」の形に対応している。

29）陈佐千让宋妈堵住门，不让人进来看热闹。毓如说，出了丑就出个够，还怕让人看？看她以后怎么见人？　陈佐千说，你少插嘴，我看你也该灌点醒酒药。
（苏童／妻妾成群）

29）の“你少插嘴，”は、
넌　말참견하지　마.
（お前は　口を挟む　な。）

に訳される。“少插嘴”は動詞「말참견하다」の語幹「말참견하」＋禁止を表す「지 마」の形に対応している。もう一つの例を見てみよう。

35）春兰马上反驳道。她愤恨地望着觉群。“我没有！　我没有！　你冤枉我，不得好死！”觉群挣红脸抵赖道。“好，五少爷，我冤枉你，我不得好死！　哪个赖，哪个也不得好死！”春兰又气又急大声发誓道。“春兰，你少说两句！”觉新知道觉群在抵赖，因为觉得春兰的话不能入耳，便阻止道。　（巴金／秋）

35）の“你少说两句！”は、

입　　좀　　**다물어**！
（口を　ちょっと　閉じろ！）

に訳されるが、“**少**说两句！”は名詞「입」（口）＋動詞「다물다」（閉じる）の命令形「다물어」で対応し、意味は「黙れ」に相当する。

こうしてみると、中国語の“少”が「全量否定」を表す時、韓国語では「적게」または「좀 적게」で対応できず、以下の形式をもって「全量否定」を表すことになる。

形式１：動詞の語幹＋禁止を表す「지 마」（用例28）と29）のように）
形式２：禁止の意味を有する語彙やその他の形式（用例35）のように）

ここまでの考察からすると、中国語の“少”が「全量否定」を表す時、日本語と韓国語は非常に類似しているように見える。ところが、韓国語には「少量肯定」と「全量否定」という二通りの意味と機能を有する副詞がある。その副詞は「작작」であるが、「작작」自体は「度が過ぎないように、適当に」という程度の意味を表す。そして文中において「少量肯定」と「全量否定」の両方の意味と機能を果たすことができる。例えば、

41）술 좀 **작작** 마셔라.
　a お酒はほどほどにしろ。
　b **少**喝点儿酒。
42）뭐가 억울하다고 울어！　**작작**해라！
　a 何が悔しくて泣いてるの！　泣くな！
　b 哭什么？　有什么可委屈的？　**少**哭哭啼啼的！

において、41）は「少量肯定」と「全量否定」、二通りの意味解釈が可能であり、42）は「全量否定」を表す。

「작작」は程度副詞であることから、必ずしも「少量」の意味を有する中国語の“少”と対応できるとは限らない。この問題については紙幅の都合上別稿に委ねることとしたい。

### ４.３　「少量肯定」と「全量否定」を表す言語形式の対応関係

では、これまで考察してきた中国語と日本語、韓国語の「少量肯定」と「全量否定」を表す言語形式を以下の表にまとめておく。

| | 少量肯定 | 全量否定 |
|---|---|---|
| 中国語 | “少”＋述語動詞＋数量詞＋（目的語） | 1．第二人称主語＋“少”<br>＋述語動詞＋（目的語）<br>2．第二人称主語＋“少”<br>＋述語動詞＋数量詞＋（目的語） |
| 日本語 | 1．動詞の連用形＋すぎないように～<br>2．少量肯定の意味を有する語彙または<br>その他の言語形式 | 1．動詞の終止形＋禁止の意味を表す<br>終助詞「な」<br>2．否定の意味を有する語彙またはその<br>他の言語形式 |
| 韓国語 | 1．「적게」＋述語動詞<br>2．「좀 적게」＋述語動詞<br>3．「작작」＋述語動詞 | 1．動詞の語幹＋禁止の意味を有する<br>「지 마」<br>2．否定の意味を有する語彙またはその<br>他の言語形式<br>3．「작작」＋述語動詞 |

## 4．むすび

本稿はコーパスに基づいて、中国語の副詞“少”の意味・機能について再考した。まず形容詞としての“少”が持つ「少ない＝少量」の意味から、副詞としての“少”と肯定、否定および量の関係を明確にした上で、“少”が有する「少量肯定」と「全量否定」という二つの意味の解釈について考察した。その結果、主語の人称が副詞“少”の意味の確定に大きく影響し、主語が第一人称と第三人称の場合、“少”は「少量肯定」として、主語が第二人称の場合、“少”は「少量肯定」と「全量否定」の二通りの意味として解釈されることがわかった。そして中国語のこういった「少量肯定」と「全量否定」という意味機能を兼ねて持つ言語形式について、その普遍性と個別性を明らかにするため、中国語と日本語、韓国語の形態的対応関係について考察を行った。その結果、日本語と中国語はあまり類似性が見られず、韓国語は中国語と似たような言語形式を持ちつつ、日本語と似たような言語形式も存在することが観察された。従って日本語母語話者を中心とした中国語学習者に副詞“少”の意味と用法を教える時、形式的特徴と意味的特徴を明確に示した上で、“少”が使用されるコンテクストや状況についてできるだけ具体的に説明したほうが良いと思われる。

中国語の“少”は「少量」の存在を表す「量化詞」であり、この「少量」はいわば「主観的少量」である。「主観的少量」であるため、その量を「無」に限りなく近づけることも可能である[iv]。そういう意味で、“少”が第二人称主語文において、否定的評価をされた（聞き手の）行為に対し、「全量否定」という語用論的機能を果たせる点も理解しやすいだろう。今回は韓国語にも似たような言語現象が見られたが、英語やその他の言語については今後の課題としたい。

**脚注**

[i] 『現代漢語詞典』第７版では「形容詞、動詞、副詞」とし、『現代漢語八百詞』では「形容詞、動詞」としている。

[ii] 李貞愛（2004）では「阻止的な禁止」としている。

[iii] 多くのネイティブ・スピーカーから「少なく食べる」「少なく入れる」のような使い方より、「少し食べる」「ちょっと入れる」をよく使うという情報をいただいた。

[iv] 刘丹青（2013）では、“少”は“是一种主观小量词（甚少词），覆盖了从少量存在到零存在的量域（少→无）。”としているが、筆者も同意見である。

**引用例文出典**

北京语言大学汉语语料库（BCC）（「北京語言大学中国語コーパス（BCC）」）

http://bcc.blcu.edu.cn

出典を明記していない用例は筆者の作例である。また、日本語訳と韓国語訳については、それぞれ複数のネイティブ・スピーカーのチェックを受けたものになっている。

**参考文献**

〈中国語文献〉

1．陈爽（2005）祈使性否定副词“少”，《柳州职业技术学院学报》第３期。

2．李倩（2013）祈使句“少3＋VP”句式及其语义研究，《现代语文（语言研究版）》第５期。

3．刘丹青（2013）汉语特色的量化词库：多／少二分与全／有／无三分，『木村英樹教授還暦記念　中国語文法論叢』，日本白帝社。

4．姚占龙（2014）祈使性否定副词“少”的产生及其语用解释，《语文研究》第１期。

5．张谊生（2017）贬抑性否定规劝构式“你少X”研究－兼论“你少X”与“你别X”的区别，《现代汉语副词阐释》，上海三联书店。

6．《现代汉语八百词》增订本（2009）商务印书馆。

7．《现代汉语词典 第七版》（2016）商务印书馆。

〈日本語文献〉

1．加藤泰彦・吉村あき子・今仁生美（2010）.『否定と言語理論』開拓社。

2．李貞愛（2004）.“少”命令文による「部分否定」と「完全否定」『慶應義塾外国語研究』創刊号 pp43-55．慶應義塾大学外国語教育研究センター。